

長崎大学工学部情報システム工学科の学習・教育目標

平成 18 年 11 月 20 日改訂

- (A) (教養教育) 教養人文社会系の知識に基づいて、地球および人類の将来を保証するために多面的に物事を考えることができる。
- (B) (技術者倫理) 情報システムが社会のさまざまな分野に及ぼす影響を総合的に理解し、情報技術者としての社会に対する責任を理解できる。
- (C) (工学基礎)
 - (C1) 数学、自然科学に関する基礎知識が理解できる。
 - (C2) 情報工学実験などを通してそれらを情報システム工学の専門分野に応用できる。
- (D) (情報技術基礎) 講義、演習、実験を通してコンピュータのハードウェア、ソフトウェアおよびネットワーク技術の基礎およびその応用力を身につけることができる。
- (E) (プログラミング能力)
 - (E1) プログラミング演習を通してプログラム開発環境を理解することができる。
 - (E2) プログラミングに関連した講義、およびプログラミング演習を通して経験に裏付けられたプログラミング能力を得ることができる。
- (F) (情報数学) 情報処理技術を支える数学理論およびその思考方法が理解でき、応用することができる。
- (G) (マルチメディア) 画像、音声などマルチメディア情報処理についての基礎原理が理解でき、応用することができる。
- (H) (設計能力)
 - (H1) 卒業研究において研究テーマの背景を学ぶことにより、社会の要求を理解することができる。
 - (H2) ハードウェア関連の講義でコンピュータシステムを設計するための知識を取得し、実際の実装実験を通じて与えられた制約の下で効率よく問題を解決するシステムの設計能力を身につける。また、卒業研究で、試行錯誤しながらテーマを完成させていくことで、技術者として必要なデザイン能力を身につける。
- (I) (コミュニケーション)
 - (I1) 技術英語で、社会人、国際人として必要なコミュニケーション能力を身につける。
 - (I2) 卒業研究におけるゼミ、中間発表会、卒業研究発表会に参加することで、自分の意見を他人に理解させるのに必要なプレゼンテーション能力を身につける。
- (J) (遂行力)
 - (J1) 情報工学実験や卒業研究で、テーマを完成させるための必要な知識を自主的継続的に学習することができる。
 - (J2) プログラミング演習、卒業研究で、与えられた制約の下で目標を達成する能力を身につける。

プログラム履修者の決定

本学科への入学または分属 をもって対象者とする。

系入試（一般選抜 前期・後期）による入学者は、2 年進級時に情報システム工学科または電気電子工学科のいずれかに分属され、学科分属が決定した時点でそれぞれの JABEE プログラムに履修登録される。このため、1 年次の履修科目は両プログラムで共通となっている。

